

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

2024年 3月 13日	
所属部局・学年	野生動物研究センター 修士1年
氏名	白澤 子銘

<b>1. 派遣国・場所</b> (〇〇国、〇〇地域)
熊本県宇城市 熊本サンクチュアリ
<b>2. 研究課題名</b> (〇〇の調査、および〇〇での実験)
動物福祉実習
<b>3. 派遣期間</b> (本邦出発から帰国まで)
2024年 3月 6日 ~ 2024年 3月 9日 (4日間)
<b>4. 主な受入機関及び受入研究者</b> (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
熊本サンクチュアリ 平田聡教授
<b>5. 所期の目的の遂行状況及び成果</b> (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
○スケジュール 3/6 施設全体の見学、チンパンジーへの餌やりの見学 3/7 採食エンリッチメントの見学、ハンモックの制作および設置、アイトラッキング実験の見学 3/8 採食エンリッチメントの見学、アイトラッキング実験の見学 3/9 掃除・片付け
○成果 <b>●チンパンジーの採食エンリッチメント(餌やり)</b> バケツにオレンジ、大根、ほうれん草などの野菜類と果物類を入れる。普段チンパンジーは広めの施設にいますが、餌やりの時はシュートをくぐらせて建物の内側に移し、その間に餌をさまざまな場所に隠す。採食エンリッチメントではただチンパンジーに与えるのではなく、立体的に隠すことで施設内におけるチンパンジーの運動を促す効果があると考えられる。餌を隠し終え、建物内部から解放されたチンパンジーの多くは真っ先にオレンジを探していた印象が感じられた。オレンジがどれほど甘いかわからないが、手に入れたオレンジはすぐさま採食するのに対してほうれん草や大根は後回しにされがちだった。 <b>●チンパンジーのハンモック制作と設置</b> 消防署などで用いられているホース2本を編み込んでハンモックを作成した。消防用のホースということもあり、編み込むのが大変だった。また、緩いとチンパンジーを十分に支えられず、チンパンジーが落下してしまう恐れがあるので出来る限りきつくなるように締めた。昼食と実験の見学を挟んでから設置した (fig. 1)。 <b>●実験1</b> チンパンジーの他者との協力と相乗りについての実験の見学を行った。滑車付きの実験台の上に報酬(餌)のをせ、ロープで引っ張れば報酬が手に入る実験ではロープを引っ張る個体と引っ張らずに報酬だけ取る個体が観察できた。相乗りの個体が増えるのに対して報酬が減ると、引っ張っていた個体が次第に引っ張るといふ行為を行わなくなるのは興味深く、人間と近いものを感じた。 <b>●実験2</b> チンパンジーとボノボを用いてアイトラッキングの実験を行った。チンパンジーに対してボノボはおとなしく、実験参加に意欲的のように感じられた (fig. 2)。
○まとめ 今回の実習で、至近距離でボノボを観察することができた。写真や動画などで観るボノボとは違い、飼

## 「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

育下のボノボはオーバーグルーミングによって毛があまり生えておらず、人間のようなチンパンジーのようなあるいはその中間といった印象が得られた。また、野生下で見られたチンパンジーとは異なり、飼育下のチンパンジーやボノボは頭を上下に振る（頷き）行為を頻繁に行った。認知実験を行うにあたって、チンパンジーやボノボが長年飼育に携わってきた平田さんのいうことを聞いているように見えたことから、実験者との信頼関係とチンパンジーの意欲的な参加が重要であることがわかった。

○写真

※メンター（PWS プログラム指導教員）が確認済の報告書を【[report@pws.wrc.kyoto-u.ac.jp](mailto:report@pws.wrc.kyoto-u.ac.jp)】宛にご提出ください。



Fig.1  
ハンモックを設置している様子

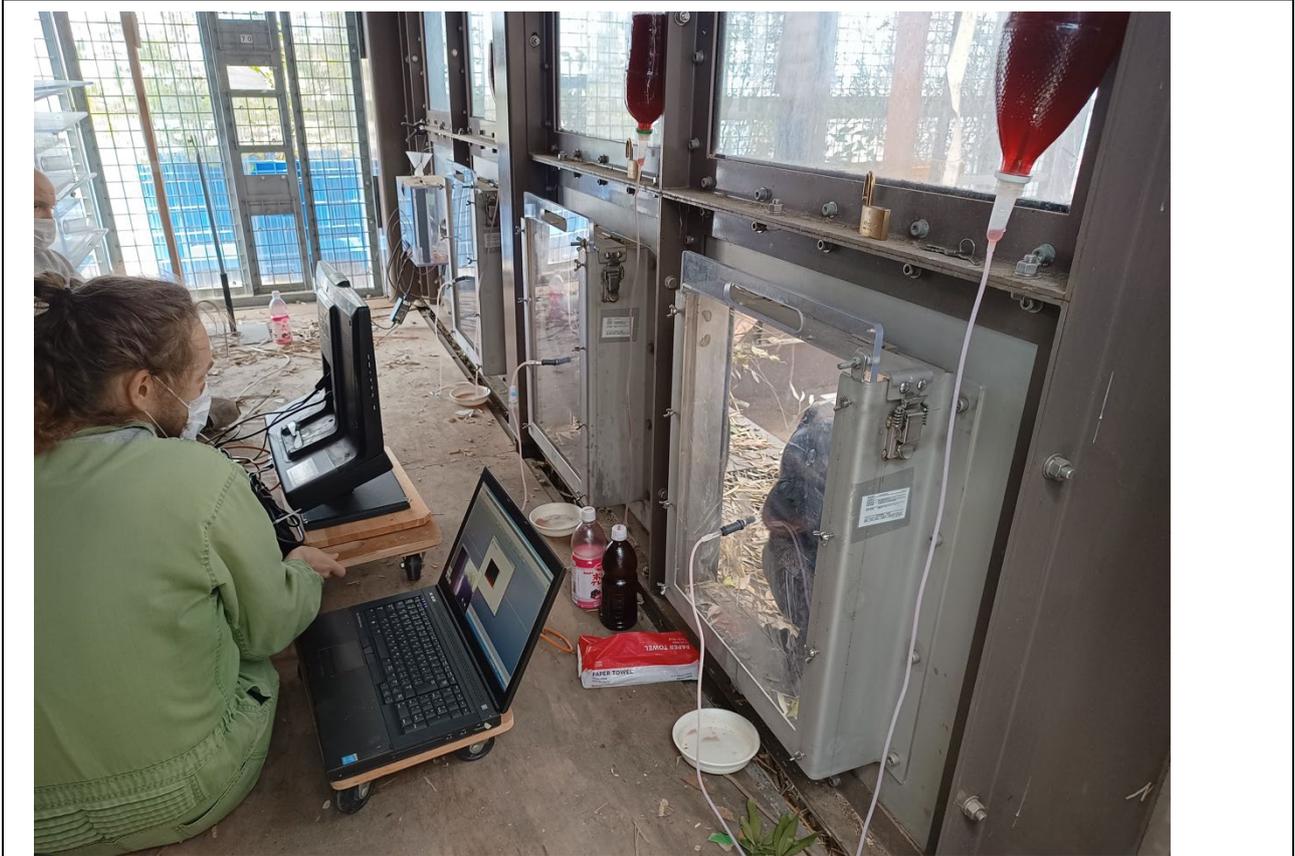


Fig. 2  
ボノボのアイトラッキング中の様子  
チンパンジーとは違い、ストローを壊さないよう器用に吸う

#### 6. その他 (特記事項など)

本実習において指導をくださった平田先生、並びに実習のサポートをくださった熊本サンクチュアリの職員の皆様に深く感謝申し上げます。